race ' race.



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力 NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を 地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂 揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

新年の ごあいさつ

医学生 夏のザンビア派遣

昨年8月にTICOザンビ アの活動地に訪れた学 生3名から、報告が届 きました。

₽p.2

カンボジア ナショナルスタッフ 紹介

カンボジア事務所を支 える、ナショナルス タッフのインタビュー をお届けします。

₩p.4

No.20 2010年1月号

ザンビアより エッセイ投稿!

農業プロジェクトのメ ンバー、チャリティー さんがエッセイを書い てくれました。

₩p.5

国内活動

ゆず狩りと地球人力 レッジのご報告。国内 も、活発に活動してい ます。

₩p.7

「あげる」から「持続 可能な産業育成」へ

-多くの失敗と

マイクロクレジットから学んだこと-

TICO 代表 吉田 修

これまで巨額の援助が行われてきました が、未だアフリカやアジアの問題のほとんど は解決していません。それどころか、十分な 栄養を摂れない人は8億人から10億人に増加 するなど、むしろ様々な分野で状況は悪化し ています。これまでの援助が有効でなかった と言わざるを得ません。何がいけなかったの でしょうか?

様々なケースがあり一括りにするのは問題 ですが、あえて簡単に言えば「あげる」タイ プの援助が問題だったと思います。建物をあ げる、道路をあげる、ダムをあげる、機材を あげる、古着をあげる、などの援助です。も ちろん地域住民のニーズに合ったもので環境 に影響が少なく、予定通り使いこなせて維持 管理できればいいのですが、現実は巨大なも のから小さなものまで沢山の失敗がありま す。(すべてが失敗といっているのではあり ません)

TICOのこれまでの活動の中にもそういっ た失敗がいくつもあります。高価な医療機器

を持ち込むも、一旦故障すると自分たちでは さらに事業拡大の融資も受けられます。成功 た。また、井戸を提供するも壊れてしまい、 いう受け身の反応です。「ください」⇔「あ 可能性を感じます。 げる」の関係から抜け出せなくなります。

状態でしたが、次第にスタッフが育ち、途中 ば、採算が取れないが緊急性のある事業、特 から有料保育園を併設し、これが発展し現在 に命を守る事業にその利潤が回せればいいと は小学校7年生まで受け入れています。そこ 思います。 の収入からほぼ自立的に運営が継続されてい ます。

また、10年以上続く救急プロジェクトも、 協力団体やスポンサーを確保し、テレビ局が 取材し番組を作り、余裕のある方からは搬送 料金をいただくなど、企業的努力を行ってい

数年前からはグラミーン・バンク(ノーベ ル平和賞受賞) の手法を取り入れ、起業を行 いたいグループに無担保・無利子で融資し、 同時に様々な技術支援を行っています。ロー ンが計画通りに返済できるということは、事 業が継続可能ということです。返済できれば

修理ができず、利用されないことがありまし 率は、私の予想よりはるかに高く、完全に失 敗したものは1つだけです。もう一つ驚いた 放置されたままになっているケースもありま のは、あるグループの女性たちの目的が自分 した。このような場合に相手方は、直して の収入向上でなく、孤児の世話をするため 「ください」、新しいものを「ください」と だったことです。このような事業化に大きな

今後、TICOは、あるいは別組織でもいい これに対し長期間活動が続いているプロ のですが、もっと企業的な活動を行うべきだ ジェクトは、何らかの収入源を確保していま と感じています。ただし、社会の役に立つ事 す。TICOの場合、ンゴンベのコミュニ 業で、環境に負荷をできるだけかけない/環 ティーセンターが13年前に栄養改善教室から 境を守る事業で、利潤が出て、その利潤がま スタートしました。数年間は手取り足取りの た社会に還元されることが重要です。できれ ☞p.3へ続く



よしだ・おさむ: 自称兼業農家(外科医) 徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医 療支援活動を実施。現在吉野川市山川町のさくら診 療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICO を運営。写真は木屋平村にてゆず狩りイベントに参 加した際に。(写真右が吉田代表)ゆず狩りについ て、詳しくはp.7へ。



IFMSA-Japan (イフムサ:国際医学生連盟-日本)のプロジェクト (Africa Village Project) として、2009年8月23日~9月4日の13日間、3名の参加者がTICOのザンビアでの活動地を訪れました。

活動地は昨年3月末に新しく診療所のできた中央州チボンボ群モンボシ地区です。ザンビアの首都ルサカから車で走ること約2時間。そこには自分たちにとって全く未知の世界が待っていました。活動のテーマは「子供の健康増進」と「継続性」。今回は私たちの行ってきた活動の一部とメンバーの感想を皆さんにお伝えしたいと思います。

母親へのインタビュー

2009年の春に参加したメンバーたち(詳しくはFace to Face 17号をご覧下さい)は、直接子供たちにインタビューやアンケート調査をしましたが、母親を通して子供の健康増進を考えよう、ということで今回は診療所を訪れたお母さんたちを主な対象に出産や子育て、子供の教育に関するインタビューをしました。HIV/AIDSをはじめ、STD(性感染症)に対する意識が概して高かったのが印象的でした。これも診療所のスタッフやコミュニティーヘルスワーカーさんの地道な保健指導活動の結果なのだなと思いました。



(インタビューの様子)

子供のお絵かき

「あなたにとって一番大切なものは?」というテーマでモンボシの子供たちにお 絵かきをしてもらいました。お絵かきを 通して子供たちの内面を知り、それを今 後の保健教育などに活かせないかとの意 図があります。「診療所」や「学校の先生」「農耕機」「ザンビアの国旗」など 様々な絵を描いてくれました。絵を描くときに鉛筆で下書きをして、線は紙の端を定規代わりにきっちりと引く几帳面さが印象的でした。



(お絵かき中)

ORS(経口補水塩)デモンストレー ション

春派遣のメンバーが準備をしていたにも 関わらず実現しなかったこの企画。夏モンボシで書もした。下痢は大のインジリスをました。下痢は大のインジリスをはいるです。普段から健康指導などのインスワーカーさんに協力していたただ際でしているモンボシのカーさんに協力した。などはなるのRSの作りな治療となるORSの作りなどをもいるとなるのRSを小さな子供をものでが、は党の彼女たちにはしょったのはないたちに試飲してはしょっぱいようでした。



(デモンストレーションの様子)

子供に日本の遊びを

文化交流も兼ねてモンボシの子供たちに「ドッジボール」と「だるまさんが転んだ」を教えて一緒に遊んできました。最初はただキャッチボールのようになられたドッジボールもルールが飲み込めてくるにつれてだんだん白熱したものとなり、大人も交じって真剣にプレーしてもり、大人も交じって真剣にプレーした。また合間の休憩に教えたより紙も大好評でした。来年の春に対メンバーが訪れたときに私たちが教えた日本の遊びを遊んでくれている子がいるか…楽しみです♪



(だるまさんが転んだ)

ホームステイ

今年で3年目となるAfrica Village Project ですが、今回はじめてモンボシでのホームステイが実現しました。メンバー一同現地の生の生活を体感できるということでワクワク・ドキドキして臨みました。ホストファミリーの温かい歓迎、家で待ち受けていた大勢の子供たちの笑顔、意外にも大きなベッドで寝られたこと、一

つひとつが とても素晴 らしい思い 出になりま した。



最後になりましたが、春に続いて今回の プロジェクトでも様々なご支援をいただ きました。初めてとなる年2回の受け入 れを引き受けてくださり本当に感謝して おります。TICOの吉田先生をはじめ、日 本事務局でサポートしてくださった福士 さん、庄田さん、現地でお世話になった 吉田(純)さん、瀬戸口さん、ルサカで宿 泊の世話をしてくださったアンドレアさ んご一家、モンボシのコミュニティーへ ルスワーカーの方々、多くの方々のご支 援があったからこそ、とても充実した13 日間をザンビアで過ごすことができまし た。みなさん本当にありがとうございま した。この場をお借りして感謝を述べた いと思います。

IFSMA-Japan/Africa Village Project メンバー一同

やっと行けたザンビア!!

福島県立医科大学4年 佐藤利栄

IFMSA-JapanがTICOさんにお世話になりザンビア派遣が現実のものとなって早くも3年が経った。私がこのザンビア派遣を知ったのは4年前、私がまだ1年生の頃だった。あれからずっとザンビアに行きたい、と思ってきた。ザンビアの地に降り立つことができたときの気持ちは一言では語りつくせない。とても感慨深かった。私は現地(モンボシ)で同年代の女性に話を聞く、という企画を行なっ

た。彼女たちと同じ時間を共有し彼女たちの目をみて話ができたことは本当に貴重な体験になった。言葉は通じなくても、彼女たちと過ごした時間は私にとって宝物だ。そして、モンボシでお世話になった皆さんの笑顔と優しさは心の中の陽だまりのように今でも暖かい。



ザンビアに行ってきました 和歌山県立医科大学1年 林真樹子

私は今年の夏にIFMSAのメンバーとして、TICOさん協力のもとザンビアに行かせていただくことになり、初めてのアフリカで本当に貴重な体験をすることができました。実際にザンビアに行ってみて、いろいろなことを知り学んだりすることが出来ました。首都郊外には何でもそろう大型スーパーがある一方で、首都から離れた村の人々の家には電気も水道もガスも通っておらず、ザンビアの格差

を目の当たりにしました。また、モンボシ地区の村で毎日村の人たちと一緒にご飯を食べたり、子供たちと遊んだりした出来事は、すべてが自分にとってかけがえのない思い出となりました。

あこがれの大地

宮崎大学2年 山下創

5年ほど前に初めて訪れて以来、アフリカ は私にとってあこがれの大地であり続け ています。そして今回3カ国目となるザン ビアを訪れました。人々の笑顔や陽気 さ、町の喧騒、満天の星空…アフリカに 共通する多くのものを再確認する一方 で、一つひとつの国を「アフリカ」と一 括りにできないということも実感しまし た。また、無報酬であるにもかかわら ず、非常に献身的に働くモンボシのヘル スワーカーさんの姿勢には心打たれまし た。「自分たちのコミュニティーの為に 働きたい。ただそれだけだ。」という誇 らしげな宣言。モンボシ、ザンビア、ひ いてはアフリカ全体の明るい未来は、彼 らの献身にかかっている…それをサポー トするために何かできないか、これから じっくり考えていきたいと思っていま す。今回このような貴重な機会を与えて いただいたこと、夏派遣のリーダーとし て心より感謝いたします。ありがとうご ざいました。

TIC

TICO合宿

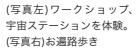
日本外国語専門学校国際ボランティア科 の生徒さん11人と先生が昨年の秋、3泊



4日で東京からTICO合宿にやってきました。地球規模で物事を考えるためのワークショップや国際協力に関する講義、地球人カレッジをはじめ、徳島ならではのお遍路歩き、藍染めと紙すき体験、さらにはTICO代表の吉田が理事長をつとめ

るさくら診療所の見学、さくら農園での農作業と、盛りだくさん の合宿になりました。

合宿に興味を持たれた方は、TICO事務局までご連絡ください。皆様のお越しをお待ちしております。





☞p.1続き

いいサービスを社会に提供し、よい雇用を生み、人々が誇りを 持って働き、小さな経済が回りだし、その利益をまた社会に還元 する、そんな起業です。

ザンビアに必要な産業はたくさんあると考えています。

- ・流通(農村と都市、北部と南部、モザンビークの海産物輸入など)
- ・農耕用の牛を増やす事業

- ・食品加工 (ソーセージ、果物の加工など)
- ・魚の養殖 (テラピア、鯉など)
- ・代替エネルギー(ヤトロファ、藻類、太陽熱発電/温水器、 風車など)
- ・高度医療(診断センター、外傷センターなど)
- · 保育所

今年は本気で計画しようと思っています。

*同じことは日本でも言えることですね。

代表 吉田 修

TICOカンボジア事務所/現地スタッフ紹介 〜活動を支えるナショナルスタッフたち〜 大坪加奈子(業務調整員)

現場で実際の活動を支えるカンボジア人スタッフ。今回、彼らに光を当て、インタビューを行いました。彼らはコミュニティの人々や関係機関との調整・交渉を行い、事業を円滑に進めるためにTICOの活動を支えてくれています。

そして、TICOの活動に留まらず、彼らが将来 的にカンボジアの発展を牽引するような人材に 育ってくれるよう願っています。

ソティア:プロジェクトオフィサー(ワークショップのファシリテーターや関係機関との調整、通訳等、幅広い業務を行っています。)

①TICOは非営利組織であり、カンボジアの人々を支援するために来ている団体であることに興味をもちました。それは、応えるものであり、また、TICOはいつも活動の成果が持続することにも共感しています。それに、私に様々な事を学ぶチャンスをくれました!



②コミュニティを対象に貧しい人々に寄り添って活動していること、また同時に根本的な問題を解決するために政府と協同で活動していることにやりがいを感じます。また、活動を通してお互いに助け合うことの重要性を再認識しました。

【人物像】

根っからの綺麗好き!!パソコンや机はいつもピカピカ。ほこり取り用ブラシ&除菌ジェルを愛用している。最近i-phoneを購入した模様。

プッティア:運転手

①TICOが人道的な活動を行っており、事故やケガの際にどのように対処したらいいのかを人々に教えていることに興味を持ちました。

②コミュニティの人々を対象にワークショップを行っている時



が好きです。特に、コミュニ ティの人々が新しい知識を得 ようと一生懸命学んでいる姿 を見るときが幸せですね。

【人物像】

小さいけど、やさしくて力持ち!!携帯の着信音がやたらでかく、時々うるさい。(他のスタッフと同じく)人のうわさが大好き。色々と教えてくれる。

質問事項

①TICOの活動に参加した最初の動機は何ですか? ②TICOの活動に参加してどのように感じますか?

ライ:調整員補助員(主に通訳・翻訳作業、その他庶務を 担当しています。)

①まず、TICOが救急の分野で活動を行っていることに興味を

持ちました。救助方法や医薬 品に対する知識不足から多く の方々が毎日亡くなっていま す。

プノンペン市西部地区において、危険なことを避けて人々が自ら身を守れるようになるための知識や救急サービスに対する知識を普及させたいです。



②ポチェントン病院のスタッ フや、コミュニティの貧しい人々に対してワークショップを行うことと、救急隊員が患者を病院に搬送するのを 支援することにやりがいを感じます。

【人物像】

口癖は「I don't know (分からない)」。でも、やることはきっちりやってくれる。いつも、周りのスタッフから体型の事でからかわれており、他のフタッフの事もからかっている。

【おまけ】 夕マ (猫)

産まれて間もない頃に、ポチェントン病院のICU(集中治療

室)に誤って閉じ込められていた時に TICOの日本人スタッフに拾われた。

TICOのスタッフは疲れた時に私に寄ってきて癒されているもよう。昼間は事務所でゴロ寝。



From ザンビア

~詩とエッセー~

2003年から始まったチペンビ地区でのアグロフォレストリー事業。

プロジェクト開始当初から、モニター※を務めているチャリティーさんが、この事業について詩とエッセーを書いてくれました。(以下、要約。) ※事業に参加している農家を監督し、農作業についての助言をしてくれる人



~ WHAT A BEAUTIFUL CLIPPER ~

家で座って、きれいな花を見ていました。私はこの花を見るのが好きでした。

ある日、見知らぬ女性がわが家を通りかかり、「このきれいな花が枯れるまでそのままにしておいて下さい。種が取れるときに戻ってくるから」と言いました。 私はその場で「いいですよ。」とつげました。

数週間後、その花は種をつけ、枯れました。そして種を依頼した女性の夫が、種を回収していきました。その種の使用方法も告げずに。

数ヵ月後、TICOが私たちの地域、チペンビへとやってきました。TICOが環境保全型農業に興味のある農家を募っていたので、私はその一人として参加することにしました。それは、まだ参加メンバーも少ない、2004年のことでした。

そして私は知りました。土中の窒素固定を行うために使う植物、ベルベットビーンズという貴重な花、それは私があの見知らぬ人たちにあげたものだったと。TICOは、この吉報を私や他の農家にもたらしてくれたのです。

TICOと日本のみなさんに感謝しています。テフロジアやベルベットビーンズなどのマメ科植物を使っていかに窒素固定を行うかを学ばせてくれました。そして

この方法は、より少ない化学肥料で、より多くの収穫をもたらしてくれました。

TICOとTICOに協力している人たちを通じて、私は農家として、多くのことを学びました。いままでは知らなかった輪作の方法も、いかに活用するか、私は知っています。

チペンビの農家を代表して、TICOの支援に感謝を述べたいと思います。辛抱強く私たちを支援してくれてありがとう。私たちの地域を訪れてくれたすべての日本の人たちのことも決して忘れません。

アフリカのザンビアにあるTICOチペンビ 地域から、みなさんの幸せを願っていま す。



チャリティー・チャンダ

チペンビ/アグロフォレストリー プロジェクトモニター

携帯番号 +260-979078696 メールアドレス charitychanda@yahoo.co.uk

~シーズ オブ ライフ~

この木はなに?

テフロジア

ベルベットビーンズ

グリリシディア

セスバニア

落花生

ひまわり

大豆

カウピー



土地が豊かでないからといって、私は諦めたりしない 土地が痩せることはもうない だってこの魔法の木が、私の土に不思議なことをするから それは地力の回復という不思議

ザンビア/チペンビ小規模農村開発ローン

New!

マサカサカ ヤギの飼育販売



コンゴ人を対象に、ヤギ肉の販売を行いたいと考えているようです。ヤギは病気になりにくく、豚などに比べ、経費があまりかからないので、事業成功に期待が高まります。サポーターはまだまだ募集中ですので興味を持たれた方はTICOまでご連絡ください。皆様のご支援、お待ちしております。

New!

ブテコ女性の会 ヤギの飼育販売



Face to Face19号でローン完済のお知らせをしたばかりのグループ「ブテコ女性の会」が新たにローンを締結。前回のローンでは、タックショップ(日用品店)を運営し、ビジ

ネスもうまくいっている様子の彼らが、更なる生活向上のために次に申請したのは、ヤギの飼育販売です。 「利益が上向いてきたら、病気や年配の方を助けるために売り上げを使いたいとも思っている。」と意気込みを語ってくれました。これから皆さん、暖かく見守ってください。こちらもまだまだ支援者募集中です。



~ローン返済終了グループ~

グロッサリー (日用品店) を構えるグループ「シカ」と、古着販売と制服の裁縫販売を行っているグループ「カリケンカ」のローンが完済!返済に時間がかかり、経営がまだまだ軌道に乗ってはいませんが、これからも頑張って成長していってほしいものです。支援者となっていただきました北灘中学校の皆様、江橋裕人様、本当にありがとうございました。無事、2グループが卒業です!



TICO

ついに宇宙人の会話を傍受、翻訳に成功!!



先生「この惑星に来るのも200年ぶりじゃな。。。。」 ティカ「わーきれーい。これが地球ですか、先生?」

先生「うむ、これが豊かな生命を育んできた惑星、地球じゃよ、ティカ君。」 ティカ「水と緑に囲まれ独自の生態系を築いてきたのですね」

先生「うむ、その頂点にいるのが人類という知能生物なのじゃ。前回の調査では、丁度工業化が 始まった 頃じゃったが、どんな素晴らしい発展を遂げたかな?ティカ君、さっそくじゃがこれまでのデータを出してくれい。」

ティカ「はい!地球歴19世紀末から人口が急激に増加、現在68億人。2050年には91億人と予想されています。人類以外の生物は900種絶滅。現在でもおよそ2万種が絶滅の危機に瀕しています。森林は現在40億ヘクタール。地表の30%まで減少しました。化石燃料に至っては激減中です。先生!各地で放射能反応です!原子力発電に、、、これは!?数万発にも及ぶ原子爆弾を保有しております。」

ティカくん・先生

★先生「信じられん!戦闘を好む種族もおるとは知っておったが、まさかそこまでとは。。」

☆ ティカ「はい、今も各地で戦闘状態が見られます。石油や鉱物などの資源を目当てに土地を奪い合い、搾

取してきたようです。先生、国レベル、そして個人レベルでの格差も年々拡大の一途を辿っています。」

先生「どういうことじゃね?」ティカ「はい、経済、教育、医療、食糧、死亡率、寿命、全てにおいて、貧富による格差が見られます。」 うい~んうい~ん!!先生「どうした?」ティカ「先生、大気成分中に異常を検出しました。」

′地球はいったいどうなるの?!

続きはTICOのプロモー ションビデオをみてね。

TICO

プロモーショ

ビデオ完成



人手不足や高齢化などで放置されたままになっている地元のゆず畑を管理している「わらびの会(徳島県美馬市木屋平)」の皆様。ゆずを収穫し、得た収益金をザンビアの活動に役立ててほしいとの思いから、1998年に会を発足。以来、毎年秋になるとゆず狩りのイベントを開催し、収穫して得た収益金を、TICOに寄付していただいています。TICOも毎年このイベントに参加し、収穫をお手伝いしており、2009年は10月11日にゆずの下草刈と枝の剪定に、11月8日はゆず狩りに木屋平まで行ってきました。

木屋平は空気の澄んだとても景色のいい場所で、たくさんの杉の木の間に、わらびの会の皆様が綺麗に手入れしてくださっているゆず畑がひっそりとあります。収穫はとても大変で、高枝ばさみで高所のゆずまでくまなく狩り、剪定ばさみで枝や葉を落とし、選別します。本当にたくさんのゆずを収穫できたのも、参加者の皆様の努力の賜物です。ありがとうございました。朝からカレーやぜんざいを準備してくださった、わらびの会の皆様にも、感謝いたします。ありがとうございました、お疲れ様でした!

ゆず草刈は10月初旬、ゆず狩りは毎年11月の第2日曜日に開催しています。2010年も、是非参加してくださいね。皆様のお越しをお待ちしております!

地球人力レッジ

理科実験教室(糸電話の実験)を実施するため、TICOザンビアの活動地域のひとつであるモンボシ地区を訪れた鳴門教育大学大学院教授、近森憲助さん。ザンビア滞在記とJICA委託業務で赴いたアフガニスタンでの教師教育強化プロジェクト、2つの活動概要、そして国際協力・教育を通して体感した、目に見えるものと見えないものについてお話しいただきました。

教育が人々に変化をもたらすものであるとすれば、教育協力を 通してもたらそうとする変化が、対象国の人々には、どのような ものとして捉えられているのか、常に関心を持つべきで、それは 目に見えません。特に教育というのは価値観や信念までをも変え

る可能性を秘めことはこれであり、目に見えるに見える方法を開発している方法を開発しただければならないでした。

(9月26日開催)



地球人カレッジは「地球規模で考えながら地域から活動していく」をテーマに、毎月1回行っている公開セミナーです。今回は9月と10月に行われた地球人カレッジの内容をご紹介します。

日本社会で暮らしている移住者※は現在221万人を超え、日本は既に「多民族・多文化」社会となっています。しかし、地域の隣人である移住者が、どのような課題を抱え、日々生活を送っているのか身近に感じていないのではないでしょうか?相談員をはじめ、移住者支援活動を17年にわたって行っている田中眞佐子さんに彼らが直面している問題について、お話しいただきました。

派遣・請負業者を通じての不安定な雇用、公的健康/雇用保険がないなど、移住労働者を取り巻く問題は大きいのに対し、日本での制度は全くといっていいほどに整っていません。また、日本語が話せても読み書きが困難なため、税金の手続きや案内を理解できない、制度の壁、言葉の壁、心の壁があります。それらの壁を克服

し、日本でも国籍やビザの有無を問わない多文化共生社会になっていければ、と田中さんは現在も広島で奮闘中です。 (10月24日開催)

※移住者:外国籍住民、日本国籍であるが 外国にルーツを持つ人。たとえ日本国籍を 持っていても日本語を話せない・読めな い・書けない人もいるため、「外国籍」住 民として一括りにはできない。



カンボジアの医師2名が 救急医療研修のため来徳!

TICOとNPO法人「セカンドハンド」 (香川県高松市) がカンボ

ジアで実施している、救急システム構築 事業の人材育成の一環として、香川県が カンボジア人医師を迎え、四国にて救急 医療技術研修を行いました。

研修期間は2009年9月28日(月)~10 月22日(木)。研修生は、ヌゥ サタさ ん (ポチェントン病院副院長) とチア チャンナリットさん(プノンペン市民病 院救急部付医師)です。香川県立中央病 院を中心に研修は行われましたが、10 月16日はTICO代表の吉田が理事長を務



めるさくら診療所の見学に訪れました。

お二人の考え方はとてもしっかりしており、人柄は非常に勤勉で 熱心。日本から学んだものとして、日本人医師の仕事に対する姿 勢、時間通りに動くこと、患者さんに対する看護師の熱意を挙げ ておられました。どうしても日本に来ると医療機器の豊富さに目

> が移る人が多いのですが、そういうと ころがありませんでした。

また、日本からもっと研修に入って欲 しいという要望がありました。日本の 医師のように自分たちと同じ目線で教 えてくれるなら、もっとやる気が出る と言ってくれました。

彼らは、自分達の帰国後のこともきち んと考えていました。彼らのような人 材がリーダーとして育ってくれたらと願 わずにはおれません。

ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちし ております。

寄付をいただいた方

ヒラオカ薬局募金箱、松久逸平、戸井裕江、谷明 西村歩、松島拓、木本豪、神園索己、武市秀男、 子、森章子、橋本伸子、ヒダノ修一、内藤健晴、 石神、みんなのチャリティー (四宮久子)、田淵 千夏、福士庸二、西山庭子、西口勇子、山元香代 子、近森憲助、保清重男、北灘中学校、四国大学 チャリティークラブ、わらびの会、TICOサポート クラブ、吉田修、堺隆弘、篠原弘子、坂田、渡部 豪、庄田政江、江口新、西泉多衣子、町田サカ エ、福井節章、林みす子、阿部和代、柳澤、羽里 ヨシミ、石岡ミサオ、秋月良子、安友カチエ、美 馬文子、山下うやか、入公秋子、野々木昭文、唐 住洲子、さくら診療所募金箱、松浦サダ子、第4回 日本小児耳鼻咽喉科学会総会会長 内藤健晴、匿 名10

新たに入会された方

竹下豊、大塚内科、徳島県医師会、北畑伶奈、五 嶋嶺、中山隆弘、三澤将大、肥後尚子、古家聖 子、大坪加奈子、塩井英子、後藤田健二、長野修 身、山川、匿名3

会員を更新された方

秋月益子、井口千陽、大多和通夫、黒岩宙司、森 本一、遠藤千鶴、久保真一・恵子、鏡登志子、篠 原幸隆、松田恵美子、中谷加奈子、池見真由、渡 部豪・あかり、神谷保彦、馬渕明子、塩田勉、井 原宏、田淵幸男・規子

●2009年9月14日~2009年12月18日分

●順不同、敬称略

TICOへのご寄付の方法

郵便振替 — 01640-6-37649 (加入者名) TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店(店番号344)

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、トクヒ)テイコ

募金箱 — さくら診療所(徳島県吉野川市)に 常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広 告をクリックして、そこからお買い物していただ くと、代金の一部が寄付されます

TICOへの入会方法

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートしてくださる方を募集 しています。会員の方には、TICOニュースレター "Face to Face" を毎号 お送りいたします。

年会費

個人 ¥12,000 賛助会員

> 学生 ¥6,000 団体 ¥15,000

正会員 ¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ 正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付 けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら 通信欄にお書き添え下さい。

TICOニュースレター Face to Face 第20号

2010年1月発行 発行人:吉田 修 編 集:庄田多江

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話/ファクス:0883-42-2271

メール: info@tico.or.jp / ウェブサイト: www.tico.or.jp

☆お知らせ ☆

ホームページとブログが新しくなりました。どんどんアクセスし てくださいね。

くお詫び>

Face to Face第18号に掲載いたしました会計報告に記載ミスが ありました。

「支出の部」の合計に、「その他」の金額が加算されておりませ んでした。正しい「支出合計」は39,547,468円です。